

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

## 12 December

13日 定例記者発表を開催

14日 公開シンポジウム・外務省外  
交講座で同省総合外交政策局  
国連企画調整課の久野和博課  
長が講演

21日 キャリア開発センター主催の  
「第1回トップキャリアセミ  
ナー」で、前ソニーCEOで  
クオタムリープ代表取締役  
フアンダー兼CEOの出井  
伸之氏が特別講演



## 1 January

12日 山陽新聞社と教育に新聞を生  
かすNIE活動の推進などを  
盛り込んだ包括的連携協力を  
関する協定を締結



18日 留学生と日本人学生が  
英語で紹介し合う交流会  
「International Night 2012:  
The Universal Language of  
Music and Dance」を国際交  
流会館で開催

19日 研究成果が米国・学術雑誌サ  
イエンスの「Breakthrough of  
the Year 2011 (2011年の  
画期的成果)」の一つに選ばれ  
た自然科学研究科の沈建仁教  
授による特別講演会を開催

25日 サウジアラビアのアブドゥル  
アジーズ・トルキスター二駐  
日大使による特別講演会「サ  
ウジアラビアと日本」を開催



## 2 February

1日 岡山大学若手研究者キャリア  
支援センターが開所  
学位取得者（ポストドク  
ター）や博士後期課程学生  
のキャリアパス支援の拠点と  
なる「岡山大学若手研究者  
キャリア支援センター（Career  
Support Center for Young  
Researchers）」が開所。同セン  
ターは、大学院の各研究科と  
連携し、企業への就職を目指  
す若手研究者のキャリア形成  
を総合的・実践的に支援。長  
期インターンシップを柱に、  
講義、セミナーなどを通じて  
企業で活躍するために必要な  
知的財産管理、経営、プレゼ  
ンテーションなどの知識、能  
力を身に付けるほか、コーデ  
ィネーターとの個別面談で、意  
識改革を図る。旧工学部21号  
館2階を改修し、事務室と面  
談室兼講義室を整備。文部科  
学省の「ポストドクター・イ  
ンターンシップ推進事業」に  
採択されており、2015年  
度まで5年間の支援を受ける。



15日 自然科学研究科の沈建仁教授  
の功績を称え、学長が表彰状  
と副賞を授与

16日 定例記者発表を開催

21日 「おかやま子育て応援宣言企  
業」岡山県知事賞を受賞



25・26日 平成24年度個別学力検査  
等前期日程を実施

25・26日 最先端の宇宙開発技術に  
触れる「スペース・サイエンス・  
ワールド」と「SSW」を鳥取県内で開催  
地球物質科学研究センターは、  
「スペース・サイエンス・ワー  
ルド」と「SSW」(鳥  
取県、同県産業技術センター  
と共催)を同県倉吉市の県立  
倉吉未来中心で開催した。同  
県三朝町にある同センターで、  
小惑星探査機「はやぶさ」が  
持ち帰った小惑星イトカワ微  
粒子の初期分析を行っている  
ことなどから企画。同センター

## 2

による電子顕微鏡での世界初  
公開のライブ観察や、宇宙開  
発・研究に携わる研究者の講  
演、宇宙開発の展示、体験な  
ど多彩なイベントがあり、2  
日間で約1万5千人が訪れた。



29日 「岡山大学若手研究者キャリア  
支援センター」オープニング  
セミナーを開催



## 3 March

2日 岡山大学・フエ工科大学特別コ  
ースの成果発表・修了報告会を  
学内で開催

3日 岡山大学、中国、吉林、韓国、  
成均館大学が連携して世界を  
舞台に活躍できる人材育成を  
目指す「キャンパス・アジア」事  
業のスタートアップコンファレン  
スを岡山市内のホテルで開催



7日 前期日程の合格者を発表



8日 優れた業績を挙げた若手研究  
者を顕彰する「若手トッパー  
サーチー学長表彰式」を実施

## 研究・臨床成果

■異分野融合先端研究コアの守屋央朗准教授らのグループが、酵母細胞の増殖・分裂を制御する遺伝子の「頑健性」を測定することに成功。得られた情報をコンピュータ細胞モデルで精密に再現した。がん治療などへの応用が期待される。国際科学誌 Molecular Systems Biology (電子版)に掲載。(12月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の阿保達彦准教授が参加する研究グループは細胞内で合成が完成したタンパク質と区別して合成途上鎖を検出する方法を世界で初めて開発。合成途上鎖の全体像を「ナッセントーム」と呼ぶことを提案した。米国の科学雑誌 PLOS ONE にオンライン掲載。(12月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の山本和秀教授と大学院消化器内科の三宅康広助教らのグループは、慢性炎症性疾患患者の血清中からリンパ球表面に発現する Programmed cell death-1 という補助刺激分子に対する自己抗体を発見。新たな検査方法や治療薬の開発に応用できると期待される。(12月・定例記者発表)

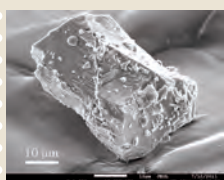
■大学院環境学研究科の木村幸敬教授らは水酸化ナトリウムを添加した亜臨界水(350℃)によって、120秒の反応時間でグリセリンから90%以上の転換率で乳酸を連続的に生産することに成功した。この反応ではアルカリ濃度が高いほど高収率が得られることが分かった。(12月・定例記者発表)

■大学院環境学研究科の藤澤和謙講師は近年、多発する豪雨による河川の氾濫、地すべりなどに起因する天然ダムや堤防からの越流・越水による破堤現象のメカニズムを研究。限界流の発生する堤体の頂上付近で侵食を発生させないことが、堤防などの決壊を防ぐことにつながることを提言。(12月・定例記者発表)

■大学院自然科学研究科の金山直樹准教授(細胞機能設計学)、大森斉教授(同)らのグループは抗体の親和性成熟の過程で起る体細胞高頻度突然変異に、スプライシング因子 SRSF1 のアイソフォーム3 (SRSF1c) が必須であることを世界で初めて発見。米科学アカデミー紀要 (PNAS) 電子版に発表した。(1月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の鄭国慶教授、川崎慎司講師らの研究グループは、鉄系高温超電導体の超電導実現条件を明らかにした。グループは高品質の試料で詳細な実験を行い、鉄の電子が帯びる磁気が高い超電導転移に有利に働くことを証明。米物理学会速報誌 Physical Review Letters 誌に掲載。(1月・臨時記者発表)

■探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワから持ち帰った試料の初期分析を行う地球物質科学研究センターの中村栄三教授らは、粒子表面に太陽風にさらされることによる宇宙風化の痕跡に加え、数10ナノメートルの微粒子が極めて高速でぶつかった結果形成されたドーナツのようなリングを持つクレーターや、衝突のエネルギーによって融解した飛沫が飛び散り付着した様子、さらには1マイクロメートル程度の破砕された極微細粒子が付着していることなどを確認。論文を米科学アカデミー紀要 (PNAS) 電子版に発表。(2月・主催シンポジウムにて発表)



■資源植物科学研究科の馬建鋒教授らは、大麦の酸性土壌環境適応力を解明した。馬教授らが同定していた鉄を輸送するための遺伝子 HvACT1 の上流にみられる 120塩基対 (120bp) の挿入が、HvACT1 の発現量を高め、発現部位も根の中心柱から根端へと変化させていることを突き止めた。英国科学誌 Nature Communications に掲載。(3月・臨時記者発表)